

3【生活者の現状認識を理解する上での参考資料】

1、「生活者の環境意識と行動」調査（2001年12月、首都圏630人・男女同数・(株)電通）によると、「関心のある環境問題」項目（複数回答可）結果は…

- ① 気ガスなどの大気汚染 63%
- ② ダイオキシン・環境ホルモンなど有害化学物質による汚染 61%
- ③ 地球温暖化の進行 60%
- ④ リサイクルの推進 52%
- ⑤ 家庭ごみの増大や分別排出 52%
- ⑥ 都市化開発による身近な自然破壊 48%
- ⑦ 産業廃棄物処理問題 48%
- ⑧ 農薬・工場廃液などによる土壌汚染・地下水汚染 44%
- ⑨ 世界的な自然破壊の進行 40%
- ⑩ 酸性雨による森林被害 36%
- ⑪ ひとつもない 8%

⇒有害化学物質への関心は高い。ただし98年の同様調査は73%で、当時はダイオキシン問題報道による影響と考えられる。全体的に98年調査と比較すると、大気汚染・身近な自然破壊・土壌地下水汚染など「健康や身近な生活まわりへの関心」が増加している。

2、上記の②有害化学物質汚染への関心をあげた61%の人の構成内訳は…

(未婚・既婚) (10代・20代・30代・40代・50代)

<男性 58% (46%・65%) (36%・49%・61%・63%・65%) >

<女性 65% (46%・71%) (44%・56%・70%・68%・69%) >

⇒既婚女性の関心の高さが特徴。男性は、年齢に従って平均的に関心が高まるが、女性は30代に急に関心を強める。妊娠・出産・育児・家事を通じて、関心が高まると考えられる。

3、環境用語を多数あげ、「意味を知っている環境用語は」（複数回答可）の結果は…

省エネ95%・リサイクル93%・ダイオキシン92%・環境ホルモン63%
環境アセスメント31%・環境ラベル24%・環境報告書 19%
環境家計簿9%・グリーンコンシューマー6%・3R 5%

⇒関心の高さを裏付けるように言葉を理解している。ただし反面、環境対策として行政や企業が取り組む事や、生活者が期待される環境配慮行動に関連する語句の理解があまりにも低い。

4、「普段心がけていること、行動していること」の例をあげ、複数回答可の結果は…

誰もいない部屋の電気を消す77%・ごみ分別をする66%・水を大切に使う57%
無添加の食品を選ぶ 26%・無農薬、低農薬の野菜や果物を買う 16%
環境配慮商品かチェックする 10%・環境ボランティア活動に参加する 2%

⇒実践行動も、省エネ・ごみ減量リサイクル・節水など従来から言われている事は多いが、化学物質対策や健康管理に関連する、食品や商品購入時のチェックへの実践は少ない。